



第2回 生物工学 基礎教育セミナー

日本生物工学会では、産業界の若手研究者・技術者を主たる対象として、基盤となる知の習得を目的に、「生物工学」(生物化学工学、応用微生物学など)の基礎教育セミナーを年に一度開催しております。企業に入社後数年が経過した若手研究者・技術者の学び直しの場としても、このセミナーをご活用ください。

第2回生物工学基礎教育セミナーでは、日本生物工学会創立90周年記念事業の一環として2013年9月に出版された「基礎から学ぶ生物化学工学演習」を教材にして、バイオリアクション(微生物反応、酵素反応)における量論・速度論、バイオリクターの設計、バイオプロセスにおける単位操作(通気・攪拌)について、執筆による講義と演習指導を実施いたします。また、産業界の著名な講師から、ものづくりの現場における課題発掘と課題解決の経験談を講演いただきます。

企業の研究現場、生産現場で働く若手研究者・技術者のみならず、新たな基盤知識を習得したい、今一度学び直したいと考えておられる方々の参加をお待ちしております。

日 時 2014年2月24日(月) 9:30～17:15(受付開始9:00～)

場 所 味の素株式会社 川崎事業所 本事務所4階41会議室

(川崎市川崎区鈴木町1-1, 京急大師線鈴木町駅下車)

<http://www.ajinomoto.co.jp/kfb/kengaku/kawasaki/access.html>

プログラム

9:30～9:35 開会の挨拶 (日本生物工学会副会長) 倉橋 修

9:35～12:00 「基礎から学ぶ生物化学工学演習」を教材とした講義と演習指導

(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 兼 フロンティア研究センター) 大政 健史

(金沢大学環日本海域環境研究センター生物機能性材料研究室) 仁宮 一章

12:00～13:00 昼食・休憩

13:00～15:30 「基礎から学ぶ生物化学工学演習」を教材とした講義と演習指導

(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 兼 フロンティア研究センター) 大政 健史

(金沢大学環日本海域環境研究センター生物機能性材料研究室) 仁宮 一章

15:30～15:45 休 憩

15:45～17:15 講演「医薬品としての微生物二次代謝産物の探索・工業化研究」

(アステラス製薬(株)・元日本生物工学会副会長) 山下 道雄

発酵生産を伴う医薬品製造には、合成品とは異なる難しさがある。企業内研究者として、免疫抑制剤タクロリムス(FK506)、深在性抗真菌剤ミカファンギン(FK463)、抗がん剤FK228などの発見・開発・製造に係わり各種課題を克服した経験と学んだ事、さらにはプロジェクトを成功させるために私自身が選択した戦術・戦略・心掛けた事などを、次代を担う若手研究者にお伝えしたい。

参加費 6,000円(税込, テキスト「基礎から学ぶ生物化学工学演習」代, 昼食代を含む)参加費は当日お支払ください。請求書等は事前発行いたしません。領収書は当日お渡しいたします。

定 員 60名(定員になり次第締め切ります)

申込方法 下記webのお申込みフォームからお申込み下さい。
https://www.sbj.or.jp/form/form_sangaku_20140224.html

申込締切 2014年2月4日(火)

申込先 日本生物工学会事務局 TEL. 06-6876-2173
FAX. 06-6879-2034 E-mail: info@sbj.or.jp





生物工学学生優秀賞（飛翔賞） 受賞候補者推薦のお願い

本学会では、創立90周年記念事業の一環として生物工学学生優秀賞（飛翔賞）を設置しました。本賞は、日本の大学の博士後期課程（あるいはそれに同等の大学院教育課程）に進学して優れた研究業績を上げることが期待される学生会員の研究奨励を目的として、研究奨励金（5万円）を授与するものです。正会員は同賞の受賞候補者を、所定の書式により支部長を経由して推薦することができますので、優秀な学生会員の推薦を宜しくお願いいたします。

受賞対象学生 応募時に博士前期課程（修士課程）（あるいはそれに同等の大学院教育課程（年次））に在籍する本会学生会員で、受賞年度において日本の大学の博士後期課程（あるいはそれに同等の大学院教育課程）に進学することが決定（予定）されている者を対象とします。10月進学予定の学生についても、進学する予定であることを指導教員等が保証することで、同等の扱いをすることができます。

受賞人数 各支部1名、合計6名に授賞される予定です。

推薦方法 推薦者（指導教員または指導予定教員等の正会員）の推薦書①と候補者調書②に必要事項を満たし、推薦者から所属支部の支部長宛に電子メールで送付下さい。

提出書類 ①日本生物工学会生物工学学生優秀賞候補者推薦書

②生物工学学生優秀賞（飛翔賞）候補者調書

①、②の様式はHP（<http://www.sbj.or.jp/>）よりダウンロードして下さい。

提出締切日 2014年2月28日（金）

提出先 書類（①、②）は、推薦者から所属支部の支部長に電子メールにて提出して下さい。支部長の電子メールアドレスや連絡先は学会HPでご確認下さい。電子メールのSubjectタイトルに「生物工学学生優秀賞推薦」と記載下さい。

問合せ先 所属支部の支部長または公益社団法人日本生物工学会事務局

(E-mail: info@sbj.or.jp TEL. 06-6876-2731)

※本賞は大会時に表彰されます。受賞者は対象となった研究の成果（あるいはその一部）について、i) 本会大会における発表、もしくは、ii) 本学会の英文誌または和文誌での論文などで発表いただくこととなっております。

日本生物工学会 生物学学生優秀賞 候補者
推薦書

20 年 月 日

推 薦 者	所 属 : 氏 名 : 印 本会会員番号 :
連 絡 先	TEL : FAX : E-mail :

候 補 者	氏 名 : 所 属 : 生年月日 :
研究題目 (和文・英文)	
推薦理由	

日本生物工学会 生物学学生優秀賞 候補者
支部推薦書

20 年 月 日

支 部 長	支 部 : 支部長氏名 : 印 所属機関・部局 :
連 絡 先	TEL : FAX : E-mail :

候 補 者	氏 名 : 所 属 : 生年月日 :
研究題目 (和文・英文)	
推薦理由	

年度 生物学学生優秀賞（飛翔賞）候補者調書

20 年 月 日

① 候 補 者	ふりがな 氏 名 (本会会員番号)	()	生年月日 (年齢)	
	所属大学院・研究 科・専攻・学年	応募時の所属と学年を記載して下さい		
	住 所	〒		
	指導教員 職・氏名			
	連 絡 先	TEL : FAX : E-mail :		
	所属支部			
	学 歴 (高等学校卒業から 記載。職歴があれば これも記載する)	最後の行に、進学予定の大学院博士課程の所属も（予定）として記載 して下さい		
過去の受賞歴	学内外の受賞歴（総長賞・学部長賞・研究科長賞・ポスター賞など） があれば記載してください			
② 受賞対象研究題目		和文 : 英文 :		

③ 候補者の研究業績（修士論文の題目と内容要旨を記載する。また学会発表，論文発表，特許出願があれば，それらの書誌事項を記載し，主な業績に○を付しコピーを添付）

修士論文の題目と内容の要旨（600～800 字程度）

学会発表，論文発表，特許出願等

著者名，論文タイトル，雑誌名，巻，ページ（発行年）

発明者名，発明の名称，出願番号

④ 博士課程における研究計画と展望（A4 版 1.5 枚以内）



◇2013 KSBB 秋季大会に参加して◇

五味 勝也

日本生物工学会はアジアを中心としたバイオテクノロジー分野における国際交流事業の一環として、15年前から韓国生物工学会（KSBB；The Korean Society for Biotechnology and Bioengineering）との学術交流協定に基づき、それぞれの年次大会に講演者などを招待・派遣して交流を行っている。昨年度まで本会からは年2回開催されているKSBBの大会のうち秋季大会に、当年度の学会受賞者を3名程度派遣し、国際シンポジウムにおける発表・討議に加えて、懇親会などを通して多くの韓国側研究者との交流を続けてきた。しかし、学会受賞者の研究分野の広がりから共通テーマを掲げたシンポジウムの1セッションとして開催することが適切でなくなりつつあったこともあり、今年度から秋季大会への受賞者の派遣を取りやめ、その代わりにプログラムのフレキシビリティのある春季大会に派遣することにより、受賞者の研究分野にフィットしたシンポジウムでの講演を行えるように変更した。今年度はそのような交流形式の変更初年度に加えて本学会役員の交代期でもあったことから、今後の交流に関する討議もあわせて、新会長の九州大学・園元先生と副会長である筆者の2名で表敬訪問を兼ねて参加することと相成った。ここでは今回参加した2013年度KSBB秋季大会について報告させていただくこととしたい。

2013年度KSBB秋季大会は、10月16日～18日に韓国の釜山市のBEXCOで開催された。ご存知の通り、釜山は韓国の南東端に位置している韓国第二の大都市（人口は350万人）であり、韓国の主要都市の中ではもっとも日本に近く、博多港から高速フェリーを使えば3時間ほどで到着できる昔からわが国と関係の深い都市である。BEXCOは10年ほど前に完成した大きなコンベンションセンターで、これまで日韓ワールドカップの組合せ抽選会場やAPECサミット会議などを開催したことで知られている。

今回の大会プログラム（手帳サイズを縦に長くした形でコンパクト、要旨はインターネットからアクセス）によると、1件のプリナリーレクチャーと2件の特別講演に加えて16件のシンポジウム（うち4件は国際シンポジウム）、65件の口頭発表、440件のポスター発表（うち31演題は3分間スピーチも行われた）というたくさんの発表が行われた。国際シンポジウムのうちの1件は、日本動物細胞工学会（JAACT）とのジョイントシンポジウムで、JAACTの副会長でもある北海道大学・高木睦先生が参加され講演を行った。また、本会の中支部長である静岡大学・朴龍洙先生も「生物工学特講」というセッションの講演のため参加されていた。

今回の参加は本会とKSBBとの今後の交流に関する討議が主であったことと滞在期間が短かったため、多くのシンポジウムやポスター発表を聞くことはできなかったが、出席したプリナリーレクチャーと国際シンポジウムともにバイオリファイナリーに関わる代謝工学や合成生物学に関するものであり、韓国においてもこの領域の研究が活発に進められていることと、その研究レベルもきわめて高いことが十分窺われた。また、ポスター発表では学生たちが非常に熱心に討議を行っているだけでなく、すべてのポスターが英語表記であり、韓国語のわからない我々の質問にもしっかり英語で回答してくれていたことにも感心した。ポスター発表を行うことが多くなってきた生物工学会の年次大会でも参考にすべきことのように強く感じた次第である。

なお、来年4月に開催予定の2014年度KSBB春季大会（開催地は慶州）には、今年度の学会受賞者のうち、北陸先端科学技術大学院大学・高木昌宏先生（功績賞）、理化学研究所・菊地淳先生（奨励賞（斎藤賞））、横浜国立大学・福田純二先生（奨励賞（照井賞））の3名の先生方を派遣することとなっている。



写真1. KSBB秋季大会が開催された釜山市BEXCO



写真2. 大会のポスターセッション会場



写真3. 懇親会後にKSBB関係者と会場にて。左から、Byung-Gee Kim先生（KSBB副会長・ソウル大学）、筆者、Seung Wook Kim先生（KSBB会長・高麗大学）、園元先生、Seung Pil Pack先生（KSBB国際交流担当・高麗大学）